

総務文教常任委員会行政視察報告

令和元年10月22日から24日にかけて、東京学芸大学附属世田谷小学校および大田区役所の行政視察を行いました。

■東京学芸大学附属世田谷小学校「子どもたちの自主性を伸ばす取り組みについて」

同校は教員養成学校に附属小学校が設置されることとなった明治9年に東京府小学師範学校附属小学校として創設されました。現在の児童数は617人、教員数は66人です。

令和元年度から4年度まで「文部科学省研究開発校」に指定され、今後の（10年後もしくは、それ以上先の）学習指導要領策定のための資料となる研究を行っています。

また、東京学芸大学の附属校という特性上、他の小学校と異なり、教育委員会の管轄から離れ、教諭独自の発想で、「子どもたちの自主性を伸ばす取り組み」を行っています。

今回の視察では、メディアやネット上で話題となっている沼田晶弘

教諭と意見交換を実施しました。

沼田教諭は、モチベーションコントロールやコーチング論、リーダーシップ論が専門で、斬新でユニークな授業は、アクティブラーニングの先駆けと言われています。現役の小学校教諭でありながら、子どもたちのやる気を引き出す「ぬまっちメソッド」を掲げ、講演などで大活躍しており、『家でできる「自信が持てる子」の育て方』、『自分からつい勉強するようになる「あの手」』など、多数の著書を出版しています。



▲東京学芸大学附属世田谷小学校

同校では、児童自らが学びをデザインすることを身につけるために、そのデザインを誘発する場やカリキュラムなどを児童に提供し、自主性・自立性を育み、伴走者としての教員の役割を追求する仕組みを確立

しており、子どもの学力向上への取り組みの参考になりました。

■東京都大田区「学校防災活動拠点について」

大田区においては、通常避難所として活用される小・中学校に単なる避難所機能だけではなく、情報収集・伝達の拠点および地域の活動拠点としての機能を付加し、「自分たちのまちは自分たちで守る。」という意識を醸成して、その地域全体の共助の体制確立に資するような取り組みを行っています。

この取り組みは、平成24年度から開始され、28年度までの5年間で91か所の小・中学校を防災活動拠点として実用化しています。

学校防災活動拠点として期待される役割は、①自治会・町内会との連携、②被害情報の収集・伝達、③避難者の受け入れ対応、④食糧・物資の配布、⑤在宅避難者の見守り・支援、⑥地域防犯活動、⑦避難行動要支援者対策、⑧区や学校災害対策本部との連携などです。今後の課題としては、拠点の担い手の高齢化と避難所運営協議会を拠点化してきたため、拠点Ⅱ避難所という認識が強く、訓練も避難

所の開設・運営に偏りがちになっているところと見られます。各拠点での組織的な活動ができるようになるためには、相応レベルの訓練が必要です。これらの課題について、逐次是正を図っているようです。

その一環として平成30年度は、拠点の充実化事業として大田区内3地区から1校ずつ学校防災活動拠点を選定し、専門知識を有した事業者訓練業務支援を委託して、図上または実動訓練を実施し、練度の向上を図っています。

今回の視察では、学校を防災活動の拠点として活用し、地域住民と連携して、平素から共助の体制を確立するためのモデルとして大変参考になりました。



▲災害対策の調査